

「PFOS」泡街へ飛散

宜野湾 漏出事故住民「怖い」

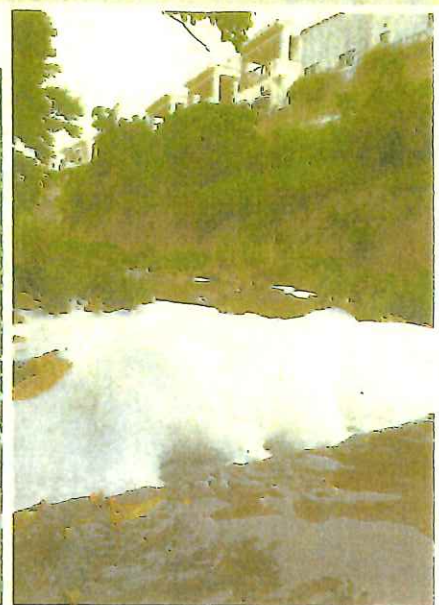
有機フッ素化合物PFOS（ピーホス）を含む泡消火剤の漏出事故から一夜明けた11日、普天間飛行場近くの川に滞留した大量の泡は、風に乗り、住宅街へ舞い散った。有害物質を含む飛来物に不安な表情を浮かべる市民。基地外に漏れた泡の除去作業に日本側が追われる一方、米軍が動くことはなかった。（1面参照）

基地内の側溝を流れた水は、暗渠（地下水路）を伝って市街地へ抜け、宇地泊川に合流する。「普天間飛行場から漏れた泡消火剤は、これだろうな。子どもたちが触ったら

大変だ」。宜野湾市嘉数の天久盛善さん（80）は午前7時すぎ、目の前を流れる宇地泊川が泡だらけになっているのに驚き、宜野湾市消防隊員らが泡の回収作

泡消火剤が確認された場所

①風が吹き泡消火剤が舞う中、消火剤除去のために放水する消防隊員（左奥）=11日午後、宜野湾市・宇地泊川



②消防が撤収した後も宇地泊川にたまる米軍の泡消火剤=11日午後、宜野湾市

④普天間飛行場から流れ出す泡消火剤=10日、宜野湾市（与那覇峰子さん提供）



③到着した米軍関係者と調整しながら、泡消火剤の回収に向けて作業する消防隊員=11日午後、宜野湾市嘉数



⑤民家の近くを浮遊する泡の塊=11日、宜野湾市嘉数（佐久間結良さん提供動画）



（出典）沖縄タイムス 2020年4月12日付記事より